



子ども大学よこはま
THE CHILDREN'S UNIVERSITY OF YOKOHAMA

2020年夏

オンラインでつながるよろこびを知った春

第一章で「ムギ」から「水」を考えた

もっと知りたい！

もっとやろう！

そんな声に・・・

【第二章】リモート学部スタート！

19名が

みんなで作った「水マップ」

そのまま終わらせたくない！

残ったみんなで何ができる??

新しく導入した

C-learning（シーラーニング）で

Zoomで会う日以外も語り合おう！

【第二章】

【Take Your Action～みらいにつなごう！】

Zoom ミーティング

14:00～15:30

第1回 6月21日（日）「水マップから海へ！」

第2回 7月19日（日）「あなたができるアクションは？」

第3回 8月23日（日）「アクションプラン みんなでシェア！」

第4回 9月27日（日）「アクションプラン そして明日へ！」

協力：横浜市立大学 木原生物学研究所

坂 智広（ばん とみひろ）教授

第1回

「水マップから海へ！」

第二章からは、ボランティアに大学院生の美咲（みさき）さんがお手伝いに加わりました。小学4年生～中学2年生のリモート学部生と、第一章で作った「水マップ」をもう一度振り返り、「生活の中で何が変わった？」と意見を出し合いました。

「外に行く時にはペットボトルではなく水筒を持って行く」

「シャワーで使う水の量を考えた」

でも・・・もっと考えたい！「水マップ」を作った時にみんなから出て来た意見には

「水は循環している」

「水を考えたらすべてにつながっている」

そんなことに気づいたから、今度は水が循環している「海」を考えよう！

【海と言ったら何？】

- 砂浜（瀬戸内海の砂浜は白いのに、関東は黒いのはなぜ？）
- つり（めごちを釣った）
- 遠足でトンビにお弁当をとられたこと
- 相模湾
- サーファーやカップルが多い
- 観光地（伊豆や江の島）



思い浮かべる「海」のイメージはみんなそれぞれ違う・・・そこで、動画をみながら、みんなで亀の甲羅に乗って海の中にもぐってみた。

「どんな気持ち？」

- きもちいい
- 自分はカメ？
- もっと泳ぎたい
- きれい
- 魚がいっぱい



【海マップを描いてみよう！】

何か気づいたかな？

「イルカとクジラの違いは？」

「塩と調味料のこと」

もっともっと！海について言葉をつなげていこう！どんな「海マップ」ができるかな？新しいC-learning（シーラーニング）に登録して、つづきの「海マップ」が出来た人は投稿してみよう。

第2回

「あなたができるアクションは？」

【海マップから気づいた事は？】

- 海の塩から調味料。
- 海では、釣り、砂遊び、ダイビング、サーフィン、楽しいことがたくさんできそう。
- 災害も海とつながっているのかな？台風、洪水、ゲリラ豪雨など。
- 海のゴミが気になる。テレビでもやっていたプラスチックゴミ、マイクロプラスチックが増えると、魚がそれを食べてしまい、私達が魚を食べられなくなってしまう。
- この頃、マスクの落とし物も目立つ。コロナ感染症で不織布マスクがプラスチックだと知った。プラスチックは自然にかえるには長い時間がかかり、自然には戻らない。感染の心配があるから、ゴミを簡単に捨てて捨てることもできない。道路に落ちていたり、川に落ちたり。川に落ちたら、海に流れ着き、海のゴミになってしまうのかな？

次々気づいた課題に「問題だと気づいたらどうする？」「そのままにできない・・・」

「どうしたらいいか考える」「何かしなきゃ」「でもどうしたらいいかわからない」

◆アクション「ビーチクリーン」をしてみたスタッフの話聞いてみよう。

- 海に浮いているゴミは見えるけど、見えない海底にも沈んだゴミがある。町の中のゴミが風に飛ばされたり、川の水に流されたりして、海にたどり着いてしまう。聞いたみんなから、「ゴミが多くて大変。」「魚がかわいそう。」「気をつけないと。」という意見が出てきました。



◆横浜市立大学 釣り部 伊藤さんからお話を聞こう。



様々な海で釣りをしている伊藤さんから、小笠原の海、母島、父島での釣りの様子、美しく豊かな自然の話、魚の味も本州近海とは違うそう。その中でもやはりゴミも見つかることがある。豊かな自然を残していかなくってはという想いを、たくさんの写真を共有しながら、伊藤さんの貴重なお話を聞くことができました。

- ☆海の問題について考え、私たちにできることからアクションを起こそう！
- ☆エコマークって、どこにある？ どんな意味がある？ 探してみよう！
- ☆私たちが考えていることは、SDG's に関係あるのかな？調べてみよう！

第3回

「アクションプラン みんなでシェア！」

◆アクションプランをたてよう！

「アクション＝活動、行動」「プラン＝計画」

「海マップ」を作って気づいた課題に、みなさんはこれから、どんな活動を考える？

◆美咲さんのアクションプランを聞いてみよう。

「忘れ物の傘」について気になって調べた。

電車の中だけではなく、道に落ちていたりする傘が多い。飛ばされるととても危険。川から海にも流される？どうしてこんなに傘はゴミになってしまうのか。「5年以内に、学校や施設で、私が、仲間になってくれる人たちと、傘を再利用できるシステムを作りたい」



【自分のアクションプランを考えよう！】

① いつ ② どこで ③ だれが ④ 何を ⑤ どうする？ とあてはめてみよう。

みんなのアクションプラン (2020/08/23)

いつ	2035年までに	2030年までに	今日から	今から	今日から (実は前から始めてたよ！)
どこで	地球で	海や水族館で	身の回りで	海、川、山で	家で
だれが	みんな	同じ考えの人と	私が	そこに行った人たちが	私が
何を	地球温暖化を	ケガや病気の動物を	自分で出したごみは	そこにあるごみを	いらなくなった裏紙を
どんな方法で	止めたい！ 電気の無駄遣いをやめよう！	助けたい！ 実現するために、今からできることは？	自分で持ち帰る！ 人に任せない！ 分別もしっかり！	拾う！ みんなで意識して きれいにする！ Mount clean River clean	ノートの代わりに 使う！

「電気の無駄遣いをやめよう」すぐできることありそう！

「2035年までに、地球で、みんなが、地球温暖化を、止めたい。まず電機のムダ遣いをやめる」「2030年までに、海や水族館で、同じ考えの人たちと、ケガや病気の動物たちを、助けたい」「今日から、身の回りで、私が、自分で出したごみは、自分で持ち帰る！人に任せない！分別もしっかりやる」「今から、海、川、山で、そこに行った人たちが、そこにあるごみを、拾う！みんなで意識してきれいにする！」「今から、家などで、みんなが、長く使えるもの（机、おもちゃ、楽器など）、おさがりでもらう」

第4回

「アクションプラン そして明日へ！」

【アクションプラン報告会】みんなのアクションプランはどうなったかな？

みんなの意見を取り入れながら、SDGsの理解を深めまとめました。

「1か月で何かできた？」

「次にできることはある？」

「SDGsの項目では何番？」

「ロゴマークはどんなイメージ？」

「どんな活動ができると思う？」



● 美咲さんのアクションプラン

「5年以内に、学校や職場で、私が、仲間になってくれる人たちと、傘を再利用するシステムを、作りたい！」

1か月で、傘を利用するシステムをいろいろ調べた。日本のことしか調べなかったので、次は海外でも同じような取り組みがあるのか調べてみたい。

SDGsは、12番「つくる責任つかう責任」

● Hくん(小6)のアクションプラン

「2035年までに、地球で、みんなが、地球温暖化を止めたい。まず電気のムダ遣いをやめる」

1か月で、重要ではないものはなるべく電気を消すようにした。充電するもの、電池を使うものもなるべく減らすようにした。次は、学校などの外でも、迷惑にならない程度の節電を心がける。みんなにもすすめる。

SDGsでは、13番「気候変動に具体的な対策を」

● Rさん(中2)のアクションプラン

「今日から、身の回りで、私が、自分で出したごみは、自分で持ち帰る！人に任せない！分別もしっかりやる」

1か月で、外出先でプラスチック包装された袋などは持ち帰って分別して捨てた。

次は、持ち帰って捨てるだけでなく、再利用のことも考えたい。

ペットボトルをもう一度水筒として使う。ボンタンアメはオブラートに包まれていて、でんぷんでできていて食べることもできる。これを応用すればもっとプラごみを極限まで減らせるのではないかと思う。

SDGsでは、14番「海の豊かさを守ろう」

【アクションプランそして明日へ！】

みんなのアクションプランは、これからどうなっていくのかな？語り合おう！

- Yくん (小4)

奄美諸島や瀬戸内海の直島でのプラごみを拾っている写真の紹介を共有。

一見きれいに見える海に、かなりのプラごみがある。海外からのものも多く、洗剤などの容器や漁網が多い。虫かごやバケツも流れ着いている。

海藻にからまったゴミがそのまま浮遊して波に運ばれてきたような写真もある。

数年前から、奄美大島や直島などのプラごみを拾ってきたのと。



- C-learning のスタッフ投稿写真



広島県宇品港近くの浜辺でみつけたプラごみ投降写真について語り合う。

そんなに多くないように見えるが、ペットボトルもあちこちに浮かんでいる。

粒状になった発泡スチロールが、砂や貝殻に混ざり見分けがつかないほどたくさんあった。見えるプラゴミだけでも5分ほど拾うとかなり集まる。廃棄に困り近くのホテルに処分してもらった。これからも、なにか目の前でできることがあったらすぐに行動し、ちょっとした活動の連鎖が当たり前になる世界を目指したい。

- スタッフのビーチクリーン活動が本格的に！？

このオンラインを通して調べるうちに出会った活動に実際参加してきた報告。

「海をつくる会 <http://umikai.sakura.ne.jp/>」は、40年ほど前から環境問題としてダイバーたちが活動を始め、山下公園の海底の清掃や野島公園、各地での海を守る活動をしている。浜辺に打ち寄せられたアオサが増えることによる悪影響もあり、アオサを回収する作業もしている。ビーチクリーンをする前に、海の中の生き物調査、アマモの植え付けなどもしているそうです。



【第一章から第二章を振り返り】

2020年度4月～9月までは、コロナ感染症拡大防止のため「リモート学部」を臨時で開設しました。第一章の坂教授の麦畑から始まったリモート学部は、講義を受けるだけでなく、「なぜ？」という疑問から、バーチャルウォーターを調べたり、「水」について考えました。第二章では、みんなで問題を考えるうちに広がっていった「水」の問題を「海」に広げて考えました。一人一人違う思考を持ち、それを伝え合って一緒に考えることで、新しいことにも気づくことができます。そして、自分の考えをまとめ、これからの未来を計画的に考え伝えるきっかけになりました。

ここで終わりではなく、次に社会の中で様々な事に自分ごととして考え行動し、そしてまた多くの人とつながり、共有することで新しい社会をつくり上げていきましょう！

【アンケート 5名回答】

① 「あなたがリモート学部に参加した理由は？」

社会勉強／案内がきたからやってみようと思った／色々と考える機会になりそうだったから。移動しなくていいから。／子ども大学がとても楽しかったので、引き続き学びたかったから。／小学生の頃から講義を受けていて、普段ふれることのできないことを聞いたり話し合ったりするのが楽しかったのでリモートでも参加したいなと思いました

② 「C-learning の使いやすさ」

どちらでもない3名（60％）／とても使いやすい2名（40％）

③ 「リモート学部の開催回数はどうでしたか？」

ちょうどよい4名（80％）／もっと少ない方がよい1名（20％）

④ 「印象に残っている話」

ジャクサの話／小麦／水の話／ムギの話／バーチャルウォーターの話

⑤ 「これから取り上げてほしいテーマ」

医療／今後のみんなの暮らしがどうなるのか／地球の温暖化対策、日常生活で自分たちができること

【横浜市立大学の坂教授よりメッセージ】

「子ども大学よこはまのみなさん、お疲れ様でした。

いつもは、毎日の暮らしの中で、見えることしか気にならなかったかもしれませんが。

でも、世界や時間、そこに暮らす全てのものはつながっています。

未来を作るのは、みなさん自身です。

好奇心を持って、知らない世界を知ること、ワクワク楽しんでください。

地球を良くしていきましょう！！」

特定非営利活動法人子ども大学よこはま
〒226-0027 横浜市緑区長津田 1-22-2-38
TEL 090-2174-1291